

今回見学した授業は、宮園啓介先生担当「公務員試験対策講座」であった。当授業は、中島総長先生の指導のもと宮園先生が池袋・王子・伊勢崎の3キャンパス2020年度学部3年生約30名を対象に2限から4限までの4時間半で教科書『論文試験 頻出テーマのまとめ方 2021年度版』を教科書として論文対策を行うものであった。受講生のほとんどがZoomによる出席であり、私もZoomによる見学であった。以下、今回の授業見学で学んだことについて述べる。

今回の授業で最も学んだのは、受講生を合格させるための合理的な授業を心掛けることである。今回の宮園先生の授業は正に合理的で効果的なものであった。宮園先生は大学指定メソッドにもとづいて授業を進行していた。毎時限冒頭においては簡単に授業の目的および手順を説明した後、受講生に教科書を読ませ、重要箇所を示し、暗記させた。暗記させた後は、字数制限を段階的に指定し、テーマごとの文章を書かせていた。随時、受講生に書いた文章を読ませて、完成度の確認にも努めていた。宮園先生は本日の授業において終始、自身が過去に公務員試験に合格した経験及び総長先生がこれまで繰り返し述べていた指導内容を念頭に置いていたようであった。それは、すなわち、公務員試験の論文対策としては、自分のオリジナリティを出す必要はなく、暗記した頻出内容を、試験本番において再構成して文章をつくることである。本日も総長先生は「博士論文などはオリジナリティを書く必要があるが、公務員試験などの論述試験においては、根拠となることは教科書に記載されているので、それらの重要なところを暗記するのが合格への近道」と述べていた。これは非常に合理的な考えである。私自身はというと、受講生に就職試験に合格してもらうことを意識しているにもかかわらず、授業中どうしても自分の学問的な知識が邪魔をして余計なことを説明してしまいがちであった。今回の見学を通して自分の足りなさを強く認識した次第である。

以上、今回の授業見学では、受講生を合格させるための合理的な授業を心掛けることを学んだ。今回学んだこと活かし、新年度の授業をしっかりと準備していきたい。